

子どもの貧困対策をさらに推進しよう

せの：区は荒川区自治総合研究所の研究課題とするなど先進的に取り組んできたが、こどもの貧困対策推進法が制定された今、しっかりとした推進計画が求められている。この間取り組んできた施策をまとめ、点検し、成果と課題を明らかにしつつ、さらに推進する体制が必要ではないか。

区：自治総合研究所の提言を受け、

- ・保健師による乳児家庭の全戸訪問
- ・スクールソーシャルワーカーの増員
- ・子育て不安解消、「いい母プレッシャー」の軽減を図る安心子育て訪問事業
- ・子育て交流サロンの整備
- ・ハローワークと連携した就労支援
- ・ひとり親家庭保護者の高卒認定試験の合格に向けた支援
- ・全小中学校の「あらかわ寺子屋」
- ・支援が必要なこどものための「居場所づくり事業」
- ・子ども家庭支援センターの体制強化などの施策を展開してきた。今後もさらに充実を図り、全力で取り組んでいく。

せのきよの
無料塾から
生まれました

山梨市では「やまなし子どもの貧困対策推進計画」策定した。荒川区も見習おう!!

尾久初空襲と私

私に尾久初空襲を教えてくれたのは今は亡き野村圭佑さんだった。都内初のピオトープ（多様な生物が生息できる環境条件を備える空間）として、はらっぱとも称される都立尾久の原公園を実現した自然保護活動家として有名で、国や都の審議会委員を務めていた。

野村圭佑 著作

隅田川のほとりによみがえった自然～下町の原風景を求めて
原っぱで会おう～愉快的な水辺の生きもの観察
下町によみがえったトンボの楽園（科学で環境探検）
まわってめぐってみんなの荒川～都市を流れる川の自然と歴史
川から地球が見えてくる
江戸の自然誌—『武江産物志』を読む
都市に自然を回復するには
江戸の野菜—消えた三河島菜を求めて

26年前、荒川区立保育園父母の会連絡会の会長を務めていた私は、子連れで野村さんの下町みどりの仲間たちの活動や自然観察会に参加していた。17年前、区議会議員に立候補のあいさつに行った時、「尾久の原の保全と尾久初空襲の伝承に取り組んでほしい」といわれ、玄人はだしの植物画を描く野村さんのイラストを選挙リー

フレットに使うことを許していただいたのだった。（都立尾久の原公園の保全のために立ち上げた尾久の原愛好会は今も自然観察会を月1回程度行っている）

当選後すぐの一般質問で、早速、区に市民参加の平和展を行うよう提案したが、「その予定はない」との回答、、、

そこで、3月10日の東京大空襲の前後に荒川国際平和展を開催し（実行委員会主催）、尾久初空襲にまつわる調査を行い、展示した。第一回荒川国際平和展は海老名香葉子さんの講演と東京荒川少女合唱隊の公演であった。また、初空襲が1942年4月18日であることにちなみ、その前後の日曜日に尾久橋のたもとで尾久初空襲被害者慰霊のつどいやイベントを行った。

当時、尾久初空襲の復旧に関わった熊野土地区画整理組合の石碑が区の工事置き場に保管されていた。私は野村さんに連れられて30年前に組合長の遠藤栄さん宅の玄関前の石碑を見に行ったことがある。私が区議になった1999年には遠藤さんは老人ホームに入り、パチンコ関連会社に変っていた。遠藤宅には、輪王寺の宮が泊まったという碑と初空襲の碑、二つの碑があり、近所の人が、教育委員会に碑を保存すべきではないかと問い合わせたが、史的価値がないといわれたそう。家の取り壊しの工事の際、尾久初空襲のみかげ石の碑は道路に打ち捨てられ、一部が割れてしまった。そこに通りかかった当時の道路課長が、工事置き場に保管したそうである。現在は、ふるさと資料館で保管されている。

爆撃地付近で聞き取り調査を行い、鈴木元一さんから警察による「尾久付近空襲状況」をお借りし、コピーした。鈴木さんは、「遠藤宅の碑は戦後ずいぶんたってできたもので、内容もいい加減」と話し、